



〒520-0041 滋賀県大津市浜町1-38 滋賀銀行従業員組合 TEL 077-521-2775 FAX 077-525-5232 Mail info@sbu-ffs.com URL http://sbu-ffs.com/

# 忘れない フクシマ まもりたい いのちとびわ湖 原発のない社会へ 2017びわこ集会

3月11日10時から大津市膳所城跡公園において「原発のない社会へ2017びわこ集会」が開催され1000人が集い、従組執行委員、先輩組合員、さざなみネットから14人が参加しました。

## 高浜・美浜原発 再稼働反対

福島第一原発事故から6年が経とうとしています。事故の原因は解明されないまま収束には程遠く、苦難は続いています。除染はできず、汚染水は漏れて太平洋を汚染し続けています。しかし、安倍政権は、原発事故費用を国民に押し付け、被害者を切り捨てるばかりか、大多数の国民の反対を押し切って川内原発、伊方原発の再稼働を決め、高浜原発などの再稼働や原発輸出、そして新たな原発建設を推進しています。福井で原発事故が起こればびわ湖の水は飲めなくなり、西日本も汚染されます。「原発ゼロ」は変わらぬ民

## 元気に、楽しく 1000人が集う

福島第一原発事故から6年が経とうとしています。事故の原因は解明されないまま収束には程遠く、苦難は続いています。除染はできず、汚染水は漏れて太平洋を汚染し続けています。しかし、安倍政権は、原発事故費用を国民に押し付け、被害者を切り捨てるばかりか、大多数の国民の反対を押し切って川内原発、伊方原発の再稼働を決め、高浜原発などの再稼働や原発輸出、そして新たな原発建設を推進しています。福井で原発事故が起こればびわ湖の水は飲めなくなり、西日本も汚染されます。「原発ゼロ」は変わらぬ民



つどいは10時にライブ&リレートークで開始され、ステージ広場の周りには、21団体のブースが並び、原発関連資料や無農薬野菜を使った特製カレーライスなどが販売され好評でした。

## 元陸上自衛隊員が講演 平和は外交でしか実現できない

3月4日、長浜市内において長浜平和委員会の主催で「『饗庭野基地』学習講演会」があり、参加した山崎執行委員から次のような感想が寄せられました。

はじめに、早藤吉男県平和委員会代表理事（高島平和委員会会長）より「饗庭野演習場の現状と闘い」と題して、今津駐屯地や饗庭野演習場の日



（長浜市在住）からは、「平成自衛隊と日本のデフエンス部隊としてこうあるべきだ」と題して、

## 次の事故が起きる前に 原発を退場させる為 一人一人がそれぞれの場で力を尽くそう



13時30分、東日本大震災被災者を忍び黙とうを捧げ集会は始まりました。主催者のあいさつに続いて、平尾雄雄米原市長と藤澤直広日野町長が来賓のあいさつを行われ、三日月知事、越市長ら5首長からは、連帯メッセージが寄せられました。

引き続き、井戸謙一弁護士が後記の基調報告を行いました。

「人の権利が侵害されれば、その被害者は制裁を受けなければなりません。被害は可能な限り避ける努力が社会的になされなければならず、被害者は賠償・救済されなければなりません。そして、二度と同じような権利侵害がなされないための努力がなされなければなりません。

このすべてをサポート・ジュしていているのが今の日本政府の姿であり、そのような政

府を許してしまっているのは、私たち一人一人の責任です。

しかし、一見強力なように見える彼らですが、彼らの政策は、決して思うようには進んでおらず、かえって現実には、市民の側が一步、一步彼らを追いつめていくことを確認したいと思いません。原発に未来はありません。いずれ、この社会から退場します。次の過酷事故が起こる前に退場させるために、来年のびわこ集会までのこの一年、一人一人がそれぞれの場で力を尽くすようにしよう。

（基調報告「最後に」より）

## 現状で「帰宅せよ」はさらに被爆、許せない

滋賀県内に避難している青田さん（福島県）と山崎さん母子（千葉県）も訴え。山崎さんは「滋賀に来て目の症状が回復した。帰るべき状態になってないのに『帰宅せよ』はさらに被爆せよ」ということで絶対許せない」と訴えられました。



## 連帯を強め原発のない社会をつくり上げる

最後に「福島原発事故を忘れることなく、被災地の人々と連帯を強め、原発のない社会をつくり上げる」との集会アピールを採択しました。引き続き「原発動かす総理はいらない」「全ての原発、今すぐ廃炉」などとシュプレヒコールでパルコ前まで2キロをデモ行進しました。

## 「連絡」

滋賀銀行従業員組合の組合事務所が移転しました。本部棟通路を入って右側です。（1階）

（機関紙「さざなみ」より）



# 機関紙「波紋」 第400号に寄せて

## 波紋400号 発行にあたって

執行委員長 中島 康隆

年金者部長 和田 一郎

「波紋」400号おめでとう。とにかく良く頑張ってくれました。働く者の視点で常に問題点を指摘し、働く者の主張を広く労働者の中に広げ、労働者に勇気を与える役割を果たし続けてくれた「波紋」に心から「おめでとう」と「ありがとう」と言います。

今、職場はどうなっているのでしょうか。人間同士のつながりはどうでしょうか？一番大切な労働者同士のつながり、「団結」は？

地域の中でも同じことが言えます。他人を大切に思う心、周りの仲間たちとのつながりを、どう構築し大切にできるか！これは一生変わらない課題です。職場での関わりは大変でしょうが、今まで大切にしてきた「波紋」の精神を、心を、大切に、大切にして今後一歩一歩前へ進んで下さい。奮闘を祈る。

## 日々の活動、情宣「 そ最大の力なり」

近畿地協議長 岡野 展子

機関紙「波紋」400号発行おめでとう。心より敬意を表します。

脈々と繋がってきた諸先輩方の運動の歴史は途切れることなく波紋を広げ、次世代の力となり新たな波紋を生み出しています。

私たちの活動の中で機関紙の発行や各種媒体の情宣活動は必要不可欠であり、果たす役割の大きさは拡大しています。多方面での活躍を基礎に、社会情勢、職場の状況を正しく分析され、進むべき方向を読者に訴え、指し示しておられる貴組合の行動力と紙面の水準の高さに感嘆頻りです。

毎月一回の発行は、記事の収集、構成、原稿作成等々、大変な苦勞だと推測致しますが、毎号楽しみに待っている一読者としても今後益々の継続発行を期待しています。

最後になりましたが日頃の地協活動への協力で感謝致します。

使い身体を動かさず10歳から100歳までというスローガンで誰でも気軽に楽しめます。

興味のある方は、気軽に声をかけて下さい。

## 真の「従業員の ための組合」

車谷 薫

私は、50歳を過ぎてから従業員組合に加入し、現在、組合三役の一員として団体交渉にも参加しています。

「波紋」や組合ニュースに載せられていますが、労働条件の改善や賃金格差の是正など、その活動に加わり「真の従業員の為の組合」であると確信しています。

組合から原水爆禁止世界大会に何度も参加し、都度レポートを「波紋」に寄稿しました。我が国は、世界で唯一の被爆国であり、平和憲法を堅持する大切さを訴え、戦争放棄、核兵器の絶滅に向けて活動し続けてきました。

もうすぐ国民平和大行進が滋賀を通ります。今年も、OBの皆様と一緒に参加し、その模様を「波紋」に発信し、日本の平和の願いを広げたいと思っています。

## 波紋400号に 思うこと

澤井 正

波紋を発行して33年目を迎えました。1983年10月の第1号は手書きでしたが、1994年11月の第132号からワープロの波紋になりました。

組合ニュースに書かれていない、職場の声、取り組んだ行事、従業員組合の見解など、分かり易く、楽しく学習できる機関紙として親しまれてきたと思えます。

食堂と事務集中センターの掲示板の波紋のピンの穴が増え少し曲がっていた事がありました。読むのに時間が必要なので、誰かがはずしてゆっくり読んで、掲示板に戻してくれたのではありません。嬉しく元気が出ました。今は、HPにも掲載されていますので、気兼ねなくゆっくり読んでいただき、波紋の輪を広げてください。

## 1枚の波紋から

八軒 和也

従業員組合に変わる前、私は職場でひどいじめ、パワハラに遭い、毎日毎日思い悩んでいました。その時、当時の職場で一緒だった従業員組合員から1枚の波紋を受取りました。それをきっかけに、色々と相談に乗ってもらい、やがて私は従業員組合の一員となり、現在執行委員として頑張っています。

あの時、渡された1枚の波紋がなければ、私は従業員組合と出会ってなかったのだろうと思います。

組合を変わり私の人生観は大きく変わった事は言うまでもありません。

今、HPに掲載され、ネットでも広がっていく波紋、これでもまた新しい仲間が増えて行っているほいほいものです。

次回500号の時まで、波紋と共に私も頑張っていきたいと思えます。

## 波紋が 広がりますように

荒井 明子

時々、気になったことを「職場の声」に投稿してきました。最近気になった声。

その一 4月からパートさんに、権限移譲で「通帳発行機」やATMのカギが使用できるようになって、どんどんパートさんへの依存が強まります。仕事は行員なみに要求されて、給料は増えないので不満の声が聞こえます。」と。

その二 CSSを掲げているが、「窓口の人が減らされて、待ち時間が長くなつては、言っている事と、やる事が違うように思う」と。

余談ですが、こんなことが書かれていました「ES（従業員満足）なくしてCS（顧客満足）なし」と。これからも、小さな声「波紋」のように静かに広がりますように。

## 「波紋」は先生で、 組合活動そのもの

山崎 幸雄

私にとって「波紋」は、記事の書き方、編集の方法を教わった先生だった。編集担当になった当時は、パソコンで新聞の編集をしたことがなかったが、188号から316号まで10年余り編集を担当した。

いつの間にか「波紋」は組合活動そのものになってしまっ

た。編集計画を相談し、記事を書いてもらう。行事があれば参加し写真を撮り記事を書く。編集し点検してもらう。印刷し、掲示し配布する。内容や読みやすさなど、反応を聞き次号に活用する。

## 滋賀銀行の良心

小原 信夫

私が従業員組合に加入したのは1999年です。

組合を移籍した理由は、金融機関の組合のリーダーとして従業員の権利と生活を守るため、銀行との交渉だけでなく、行政への要請や国民的課題に取り組み本来の姿勢に共感したからです。

元頭取が「従組は滋賀銀行の良心」と評価されました。私は、この短い一言に従業員組合のすべてが詰まっている名言と心に重く響きました。

波紋400号は先輩の方々と地域社会に貢献してきた歴史と誇りです。退職後の今でも組合のお手伝いをさせていただけたいことを幸いに思っています。

## 第四百号編集後記

谷 一明

波紋の編集を担当していると何かにつけ掲載を基準に見てしまいがちです。日程表を見て参加者に「写真撮って来て！」が口癖になってしまいました。が、やはり参加の当事者の撮る写真には特別に訴えるものがあります。

紹介したいことが増え、34号から2頁になりました。紙面が広がって記事も豊かになりました。組合の考え方も深められるようになりました。また、昨年の1月1日よりホームページも大幅にリニューアルしました。分野別ページの充実など課題は多いのですが、広く、早く伝える媒体として大いに活かしたいと考えています。

波紋が、限りなく広がりを続けることを念じて編集後記とします。

